令和6年度第1回大阪府立貝塚高等学校学校運営協議会【議事録】

【実施日】令和6年6月26日(水)15:30-

【出席者】後上鐵夫 鉄沢尚美 秦 真人 林 孝信 蓑部清美 (50音順)

校長川端 裕子 首席四反田 武志 松下 知弘 | 学年主任倉橋 崇之 原田 遊(書記)

1. 開会

2. 学校長挨拶

本年度より校長に着任し、地域との連携を大きな目標として生徒のために何ができるかを模索していきたい

3. 委員紹介(資料1)

●国立特別支援教育総合研究所	後上 鐵夫 様・・・(議長)
●本校元PTA会長	鉄沢 尚美 様
●本校 PTA会長	蓑部 清美 様
●貝塚市立第一中学校校長	秦 真人 様
●林宝泉堂 代表取締役	林 孝信 様
●本校同窓会 副会長	佃 英男 様(ご欠席)

4. 会長・副会長選出

会長 前年度に引き続き後上様で決定

副会長 他委員のご推薦により佃様で検討

5. 議事

(1) 今年度の学校経営計画について(資料2) [川端 校長]

・地域の方々との連携、地域の協力を得た教育を目指すという観点から、「学校」という文言を「チーム貝塚」に変更

・3.[自己評価(1)わかる授業]内「学習力」に学習力の定義・説明を追記

(2) スクール・ミッションと3つのスクールポリシー(資料3) [川端 校長]

・アドミッション・ポリシー(変更案)の提案

・スクールポリシーの説明

・「パック」選択において、生徒の将来設計とのミスマッチが起きないようにオリエンテーションの充実を強化する

・人権教育のあり方 日常生活の中で行う取り組みとしての認識を強化する

・コロナ禍で減少傾向にあった地域との連携を活性化させる

(質疑・提言)

・地域連携によって地域の方から「貝塚の生徒と一緒にするとこんないいことがある」と 思ってもらえる取り組みをたくさんやっていてもらいたい(後上様)

→地域の方にご迷惑をおかけしていることが現状であるが、生徒たちの良い部分を知り、受け入れていただけるような取り組みを行っていきたいと考えている(校長)

・地域というのは、貝塚だけではなくもっと広い範囲でも考えているのか(秦様)

→もちろん泉州という範囲での取り組みも必要であるが、まずは貝塚の方々に受け入れて 頂くことが大切ではないかと考えている(校長)

・具体的にどのような連携をコロナ禍前はされていたか(秦様)

→幼児教育・農業体験を実践しているが、より実践的で社会の仕組みと深く関わった形の 交流ができないかと考えている(校長)

・貝塚商店街では貝塚生徒がフラワーボックスの配置を作成している活動も、地域住民か ら好評であり、連携と言える(林様)

・自立支援教育として作業所との連携を深めていくことは可能か(秦様)

→本校の生徒は就労の生徒がほとんどで卒業後作業所にいく生徒がいないのが現状である
1年次で作業所体験はさせて頂いている

(3) 進路指導部報告(資料4) [四反田 主席] (西本 進路指導部長代理)

・(就職)1名2社まで応募可能→実際は1社に集中する生徒が多い

・(専門学校)看護系専門学校進学は3年連続で希望する専門学校への進学率100%である

(4) 広報活動報告(資料5) [四反田 主席]

・昨年度の説明会においてはすべての回において定員をオーバーする結果となった

・新入生アンケート結果の共有

(質疑・提言)

・10月のオープンスクールについて、貝塚市内の中学校の体育大会の日程が昨年ごろから、

10月になっているため、近隣中学校との行事予定の共有も今後は視野にいられたほうが良いかもしれない(秦様・後上様)

(5) 生活指導部報告(資料6) [四反田 主席] (今井 生活指導部長代理)

・遅刻指導の変更点

漢字の書き取り→「なぜ遅刻がだめなのか」を書き取り

毎日行っていたものを金曜日に集中して行うこととする

・懲戒の数で生徒指導訓告が増えている点は、遅刻数の多さに一因がある

(質疑・提言)

- ・廊下や階段の落ち葉や髪の毛が目立っているため、遅刻指導で清掃行うのはどうか
→普段の清掃では学校の広さに対し掃除監督教員の数を確保できていない悩みがあった
すでに、奉仕活動を指導のひとつとしているため、参考にさせて頂く
- ・遅刻には、2時間目以降の登校なども多いか
→生徒間でさまざまではあるが、学年が上がるにつれて大幅な遅刻も増えている

(6) 新入生の状況について [倉橋 1年次主任]

- ・『貝高生としての自己肯定感を高め、進路実現をめざす』を学年目標とする
- ・対話を重視し信頼関係を築いた上での指導・教育を行っていく
- ・校外学習ではマリーナシティへ行き、スタンプラリーやBBQへの積極的な参加や、時間を守っての行動ができていた
- ・体育祭は他学年との縦の繋がりを持つことができたことに喜びを感じている生徒が多い
- ・日常的な生徒の様子
- ・素直で活発な生徒が多く、些細なことでもあいさつやお礼を言える生徒も多い
- ・4月当初は時間管理もきちんとできていたが、6月に入って遅刻や休みも増えている傾向がある。
第2考査に向けて生活リズムを確立できるよう指導を行っていく

(質疑・提言)

- ・遅刻の仕方はどのような傾向か(後上様)
→年度はじめは朝余裕をもって来ていた生徒も、チャイム間際に来て間に合わなかったり、あと数分早く来ることができればという生徒が多い

6. 質疑応答

- ・福祉・介護分野への就職や進学の現状はどうか(鉄沢様)
→本校には福祉パックもあるが、パックへの希望者そのものも減少傾向にある(校長)
→地域の病院や福祉の専門学校からも、入学希望者の確保が難しく広報活動を希望される声も頂いている(四反田)
- ・大学への進学状況で1名のみが進学している大学も多くあるが、指定校推薦の枠数によるものか(秦様)
→総合学科の特色として、同じパックを選択している生徒でも個で希望する大学が異なる傾向があり、指定校推薦枠が複数人あっても、希望大学が分散し1人しか希望しなかったということも多い(校長)
- ・自転車通学の事故件数は年間どれくらいあるか(秦様)
→小さな怪我などは月に1度程度あるが、大きな怪我は年間2,3件ほどである(四反田)

・自立支援の進路状況や取り組みに変化などはあるか(後上様)

→多くの変化はないが、一般就労を目指す生徒もでてきているため、個々のニーズに合わせた支援が必要であると考えている(校長)

7. 閉会

次回予定 第2回 10月16日(水) 14:00~16:50(6限、授業見学を含む)